

## 美しい感動的な合唱にするために

おはようございます。

昨日は、二寺小の運動会がありました。本校から15名の1・2年生が、小学校1年生の面倒をみるなどのボランティアに協力をしてくださいました。今村校長先生から「ご協力ありがとうございました。」とお礼の言葉ありました。

さて、いよいよ文化祭が今週の土曜日にせまってきました。舞台の部に合唱コンクールがありますが、各学年とも朝や放課後の練習にも熱が入ってきて、校舎内に美しい声が響きわたっています。そこで私からみなさんによりよい合唱ができるように、ひと言アドバイスをしたいと思います。

まず、人が音楽に感動する要素に、「強い・高い・速い」というのがあります。誰しも会場いっぱいに響く強い音、高い音や速い音に感動しますが、人はそればかり聞かされたら感動どころか、いやになってしまいます。合唱コンクールは、みんなで歌う声の大きさを競うものではありません。「弱い・低い・遅い」といった対象的な要素も大切にして、曲にあったイメージで表現することが大切です。では、合唱をまとめるこの時期、どのようにしたらいいでしょうか。

(1) まず、**パートごとの声を揃える。**

各パートの中でこの人は良い声だね、音程も確かだねという人に合わせていくとだんだんまとまってきます。このとき、しゃべるときの声を地声といいます。地声ではきれいな合唱にはなりません。詳しい発声法については阿部先生に指導してもらってください。

(2) つぎに、**各パートの役割を理解して、強弱のバランスを！**

自分が歌っているメロディーは、主役（主旋律）なのか脇役（対旋律）なのか、主役を引き立たせる飾りなのか（オブリガート）を十分理解して歌う。つまりパート、旋律の役割によってバランスを考えて歌うことが大切です。また、フォルテやピアノ、クレッシェンドやデクレッシェンドなど、書いてあるからといってみんな同じではありません。その度合いは、指揮者やパートリーダーが指示するといいでしょう。

(3) 最後は、**心を合わせて曲にふさわしい表現をする。**

歌詞の意味を同じように感じながら、心を合わせて歌うということです。自分たちがパート練習や全員での合わせ練習のとき、ビデオやMDなど録画・録音できる機械を使って自分たちの演奏を客観的に聞いて、みんなで自分たちの合唱を評価し合い、高めていくとますます良くなるでしょう。

あと5日間、今日お話したことを参考にして、心のこもった感動的で質の高い合唱をしてください。最後に、文化祭前に26日火曜日に曳舟文化センターで区連合学芸会があります。3年生の演劇に出演する生徒と和太鼓部で出演する生徒は、いろいろと重なり忙しい中ですが、練習してきた成果を十分に発揮してください。